

序

ゲノム医療が本格的にはじまり、がん医療現場でも遺伝子解析やがんゲノムに関する知識が必要になっている一方で、こうした新しい分野について、まだ教科書レベルで学べるような機会がなく、また体系的にまとめた参考書のようなものが整備されていないと感じていました。そこで、今回ゲノム医療に関するキーワードとその解説を集めたペディア（事典）をつくることにしました。

本書では、大きく前編（基礎編）と後編（臨床編）に分けて、学会やエキスパートパネルなどでよく出てくるキーワードごとに解説することで、疑問に思った項目についてすぐに調べられること、また最初から読めばゲノム医療に関する基礎的な点から最新の情報まで広く知ることができること、をめざしました。

前編（基礎編）では「1章」でがんゲノム解析に関する基礎的な知識、「2章」では遺伝子パネル検査でよく出てくるような遺伝子に焦点を絞り、その背景や生物学的意義について解説しています。事典代わりに使っていただいてもよいですし、もし興味がある遺伝子があれば、その遺伝子について深く学ぶきっかけになればよいと思います。「3章」では、より精度の高い個別化医療のためのオミクス解析手法について、「4章」では情報解析についてできるだけわかりやすく紹介しています。「3, 4章」はやや研究に近い面もありますが、拾い読みをしていただけるだけでもよいと思います。

後編（臨床編）では「1章」でエキスパートパネルや学会などで耳にするようなゲノム医療に関するキーワードについて、「2章」ではゲノム情報を活用する臨床試験や治療開発に関する事項について解説しています。特にゲノム解析で使われる専門用語（アレル頻度、アノテーションなど）については、こちらを見ていただくとよいと思います。「3章」では、パネル検査で変異データの意義を解釈するときによく使われるデータベースとゲノム解析に関係する倫理的・社会的な法整備などについて解説しています。普段耳にしているもなかなかその内容について知る機会がない方にとっても役立つ参考書になるかと思います。

最後に、本書では各キーワードに関して、研究、医療の現場でお忙しいなかにもかかわらず、各分野のエキスパートの先生方にご執筆を賜りました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

本書によって、読者の皆さんのゲノム医療に関する理解や知識が少しでも広がることがあれば編者として望外の喜びです。

2023年11月

柴田龍弘